

認知症の地域支援に備える

恵庭市保健センター 佐藤和彦
島松病院 吉村雅人
千歳豊友会病院 斎藤朝文
花川病院 内柴佑基・岡地雄亮

【目的】

平成27年1月に「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」が公表され、7つの柱が示されています。また、平成28年1月には地域支援事業の実施要綱が示され、その中にも認知症施策の推進が盛り込まれています。

これらにおける認知症初期集中支援チームには、作業療法士がチーム構成員として明記されており、国のモデル事業を経て平成30年度からは全ての市町村で実施の予定となっています。また、認知症支援推進員についても作業療法士は位置づけられており、その配置も平成30年度から全ての市町村で実施となっています。

このほかにも認知症リハビリテーションの推進、認知症ケアパスの作成普及、認知症カフェでの介護者支援など、今、作業療法士には多くのことが求められており、期待されています。

これらの動きを受けて、調査研究や研修会が行われ、日本作業療法士協会では「初期認知症および軽度認知障害の人とその家族に対する効果的な作業療法士の支援構築に向けた調査研究事業」の報告も行なわれています。

しかし、私たちは具体的に何をみて何をしたら良いのでしょうか。今回、「認知症の地域支援に備える」というテーマで、新オレンジプランを理解し、同プランにおける作業療法士の役割や効果的な支援、それらを通じてみえる地域包括ケアシステムにおける互助・公助について考え、今後の動きに備えるためのワークショップを企画しました。

【内容】

1. 認知症施策の動向

新オレンジプラン（7つの柱）を中心に

2. インフォーマルサービスの紹介と作業療法士の支援の可能性

認知症サポーター、認知症カフェなどを中心に

3. 関連機関との協業

行政、地域包括支援センター、他事業との連携を中心に

4. 初期認知症および軽度認知障害を対象とした作業療法の視点

脳の機能障害を考慮した具体的な生活支援、家族・介護者への認知症理解サポート、生活行為向上リハの視点、福祉用具・自助具の見立てと環境整備